

令和4年12月16日

久留米市議会議長 石井 俊一 様

議会広報委員長 権藤 智喜

議員派遣報告書

本委員会は、会議規則第160条の規定に基づく派遣について、次のとおり実施しましたので、報告書を提出します。

記

- 1 日 程 令和4年11月14日（月）～15日（火）
- 2 派遣先 和歌山県和歌山市：議会広報の取り組みについて
及び内容
- 3 派遣議員 委員長 権藤 智喜
委員長職務代理者 早田 耕一郎
委員 井上 寛 秋永 峰子 森崎 巨樹
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 新村 利恵

視察報告書

委員会名	議会広報委員会
視察日時	令和4年11月14日（月） 午後2時30分～午後4時
視察先・概要	和歌山県和歌山市 人口：約35万2千人 面積：208.85k㎡ 特記事項：中核市
視察内容	議会広報の取り組みについて
選定理由	<p>和歌山市議会では、フェイスブックやインスタグラムなど SNS に力を入れている。また、YouTube や議会の PR 動画を制作しており、他の自治体にはない取り組みが見られる。また、市議会だよりでは、特集を組むなど、紙面の内容が充実している。</p> <p>本市議会では、令和2年度に市議会だよりの大幅なリニューアルを行い、令和3年度にフェイスブックを立ち上げた。それらについて、一定の効果は見られるものの、まだ課題も多く、和歌山市議会の取り組みを今後の参考とするため。</p>
調査概要	<p>和歌山市議会において、中塚副議長の挨拶に引き続き、議事調査課調査広報班 亀岡副課長から議会広報の取り組みについての説明を聴取し、広報委員会の中村委員長、堀副委員長も出席され、質疑応答を行った。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">＜視察の様子：和歌山市＞</p>
調査内容	<p>和歌山市議会では、「見やすい、読みやすい、親しみのある紙面づくり」を目指し、平成29年度から市議会だよりの見直しを始め、新たに特集記事を掲載するなど紙面をリニューアルした。</p>

また、市民との意見交換会をきっかけに SNS を導入し、平成 30 年からフェイスブックの運用を開始。フォロワー数は 2,600 人を超え、中核市で最も多い。また、令和 3 年から中核市で初めてインスタグラムの運用を開始し、若年層に向けての情報発信を充実させている。

その他、委託や事務局独自で市議会の PR 動画を制作し、YouTube で発信している。そのうち、アニメーションを使った動画は、市内の小・中学校、高等学校に DVD として配布し、主権者教育の一環として授業で活用されている。こうした取り組みをきっかけに、小学校から議会の傍聴に来てもらうようになるなど、効果も見られる。

また、動画に地元出身のお笑い芸人を起用し、議会について面白く、分かりやすく解説するなど、多くの人に見てもらえるような工夫がされている。

今後も、「『伝える』から『伝わる』広報へ」、を念頭に置いて広報強化に取り組んでいくということであった。

主な質問・応答

問：全国的にも、投票率が下がっていることが課題であるが、議会だよりの特集でテーマとして取り上げたことはあるか。

答：特集で取り上げたことはないが、若年層の市議会への関心が低下していることが課題であると認識しており、市議会だよりをできるだけ親しみのあるものにして、市議会を知るきっかけになればと考えている。市議会を知ることによって市政にも関心が出てきて、結果的に投票率の向上にもつながっていくものと考えている。

問：議会広報を行う上で、効果の検証はどのように行っているか。

答：フェイスブックは、どういった記事に「いいね！」がつくかを検証しているところであるが、議会関連の記事は「いいね！」が少なく、広報関連の記事は「いいね！」が多い。親しみやすい記事がたくさん掲載されると、ファンが増えると思われるので、そういった記事を増やしていきたい。議会のネット中継も分析中であるが、意外に夜間に見ている人が多い。働いている人は、昼間の中継を見ることができないなどの状況もあるので、誰に向けて情報を発信しているかをよく考えていきたいと思っている。議会だよりに関しては、議場の見学に来た人などに意見を求め、生の声を聞いている。

問：広報に関する事務局の体制は、どのようになっているか。また、事務局全体が広報の意識を持って業務を行うためにどのように取り組んでいるか。

答：事務局の職員は25人おり、そのうち広報専属の職員が5人である。広報を強化していることを事務局職員全員が認識しており、担当する係に関係なく、全員が協力してくれている。

問：広報紙はどのような方法で配布しているか。

答：自治会を通じて配布している。自治会に未加入の世帯は3割程度であるが、希望者には、市政だよりや県民だよりと一緒にシルバー人材センターに配布してもらっている。新聞折込で配布していた時期もあったが、費用が掛かることもあり、シルバー人材センターへの委託に切り替え、その分を動画の制作費などに充てている。

問：本市議会の議会広報委員会の委員は5人で、人数は少ないが議論が密になるというメリットがある。和歌山市議会では、広報委員会の委員は11人であるということだが、思い切った攻めた内容の動画を作っておられる。その辺りの委員の間での意見のすり合わせは、どのように行っているか。

答：意見が食い違う場合は持ち帰り、方向修正を行っている。広報委員会は、たびたび開いて、意見をまとめている。



<集合写真：和歌山市>

その他（意見・感想）	<p>和歌山市議会では、市議会全体で議会広報に力を入れられており、特に動画の制作や SNS については、先進的に取り組まれていた。</p> <p>本市議会では、市議会だよりやフェイスブックの内容の充実が直近の課題であり、その見直しに当たり大変参考になった。</p> <p>また、PR 動画は、若年層が市議会に興味を持ってもらえるきっかけになるような内容であり、本市議会の情報発信の充実に向けて、これらの手法を検討していきたい。</p>
------------	---